

「2007年度 第1回 番組審議会 議事録」

I. 開催概要

1. 日時場所：

2007年5月29日（火） 14：00 ～

株式会社 キッズステーション 本社 会議室

2. 審議委員：

阿部 敬悦

浮田 周男

斎藤 汎司

副島 恒次

高芝 利仁

田口 成光

宮下 友美恵

計7名

3. 事業者：

内田 康幸（代表取締役社長）

大木 貴嗣（取締役業務推進本部本部長）

山田 裕子（放送本部本部長）

因 真一郎（制作部部長）

坂本 直紀（編成部部長）

石田 千佳子（ブランド戦略室室長）

小坂 修司（経営企画室室長代行）

青木 恒子（ブランド戦略室）

計7名

II. 議事内容

1. 議題

2007年度、番組審議委員会の委員長および副委員長選任

2007年度、番組編成の説明

未就学児童向け番組「ハッピー！クラッピー」趣旨説明

番組審議

I. 「まねじむな」について

II. 「マギー審司の Smile Magic」について

2. 2007年度、番組審議委員会の委員長および副委員長選任について

委員の互選により、委員長に宮下友美恵氏、副委員長に阿部敬悦氏が選出された。

3. 2007年度、番組編成の説明について

事業者側から、配布資料に基づき2007年度の番組編成について説明を行った。

<事業者側説明>

2006度に引き続き2007年度も「未就学児童」と「チャイルド層」に向けた接触・認知度向上を目標とするが、2006年度に行った接触率・視聴率・アンケート結果を踏まえ、一部編成の見直しを行う。

2007年度の重点課題として、次の3点を挙げた。

未就学児童（1～6歳）とその親に向けての強化施策

具体的には、対象を幼稚園入園前と通園中の児童に分け、それぞれの興味や理解に応じた、きめ細かい番組編成を行う。

ティーン層（7～12歳）とその親に向けての強化施策

具体的には、視聴対象を「小学生 低学年～高学年」と、より細やかに想定し、その対象に応じた番組編成を行う。

M1層・F1層（20～34歳男性・女性）の獲得施策

具体的には、この層が子どもだった当事に、積極的に視聴していた番組を中心に番組選定を行い編成していく。

<委員側意見>

アニメの連続で、実物の人間が出てこない。1時間か2時間に1回でも“人間”が出て来るようなことが出来ないか。例えば「次の番組は、ぼくらの大好きなアンパンマンです」と言って出演してもらうなど。

連続して違う番組を見せるより、あいだに何か説明が入ると、次の番組にも入りやすくなるのではないか。

4. 未就学児童向け番組「ハッピー！クラッピー」趣旨説明について

事業者側から、今期より「ハッピー！クラッピー」を30分番組にした以下3つのポイントについて趣旨説明を行った。

親和性を高めるため、何を楽しんでもらうのか、音楽性・リズム・テンポなどの要素を入れるようにした。

子どもの目線に立った番組作り。

テレビと一緒に、体を動かすことの出来るような番組作り。

5. 番組審議…『まねじむな』『マギー審司のSmile Magic』について

自社制作番組『まねじむな』および『マギー審司のSmile Magic』について、事業者側より

番組のコンセプト等の説明を行った後、映像をVHSで視聴し、委員の番組に対する意見も交え審議を行った。

<委員側より>

『まねじむな』について

- この内容の番組に、後ろのドラム奏者は必要ないのではないか。
- 体操のお兄さん、子どもたちが体操着なのに対し、後ろの演奏者たちが体操着でないため、そちらに注目してしまう。
- 大人として見たためか、後ろの演奏者たちの方が面白いと思って見た。
- まったく違った2つの番組が1つの番組になったような印象を受けた。

『マギー審司の Smile Magic』について

- 非常に面白い。
- 子どもたちの最初の表情と、種明かしした時の驚きの顔が映像的な宝物だと思う。
- 最後に「だまされないようにしましょう」などがないと、ただのバラエティー番組になってしまうのではないか。

6. 未就学児童向け番組「ハッピー！クラッピー」趣旨説明について

事業者側より、配付資料に基づき「ハッピー！クラッピーなつスペシャル」について報告を行った。ー以上をもって本日の番組審議会の議事全てを終了した。次回は、8月26日（火）夕方、キッズステーション会議室にて開催予定。

7. その他

期残る3回の番組審議委員会の予定を確認した。